令和６年度　あしかりこども園　自己評価

１．保育方針

愛情につつまれながら安心して生きる力を育む養護と教育に基づき、家庭、地域との連携を図りつつ、園児一人ひとりの特性や発達に応じた教育・保育を行う

２．保育目標

あ　明るく	し　しっかり	の　のびのびと生きる	こ　心豊かな子ども
・笑顔あふれる子ども ・心身共に健康でたくましい子ども ・みんなと力を合わせてやりとげられる子ども	・元気な挨拶と返事ができる子ども ・最後まで一生懸命取り組める子ども ・よく聞き、自分の気持ちを伝えられる子ども	・自分の事は自分でできる子ども ・自然に親しみ感謝する子ども ・なんでもよく食べ、力いっぱい遊べる子ども	・地域交流を通して郷土を愛する子ども ・優しく思いやりのある子ども ・個性豊かに自分を表現できる子ども

3．重点目標に対する取り組み状況および評価

項目	重点目標	取組状況	評　価・課　題
教育・保育内容について	【幼児の意欲や探求心が発揮できる環境づくりについて研究し、教育保育の質の向上に努めていく】 【個別に配慮を必要とする子どもの理解と対応を職員が共通理解し有効な支援を行っていく】	○「作ってみたい」「調べたい」の気持ちを、すぐに実現できるような環境設定をし、保育教諭が子どもの意欲を高め、遊びが発展していくような働きかけを行った。 ○子どもの主体性を育むためのかかわりについて、施設視察や研修会などで知識を深め、情報の共有や課題について保育教諭同士で話し合うことで、共通理解へと繋がっていった。 ○家庭と園とが子どもの理解と情報共有を行いながら、個別のニーズに合わせた支援を行っていった。子どもが混乱せず遊びに熱中し、困り感をなくして生活できるように職員が同じ対応を行うよう心掛けた。	・新学期は年少児の経験不足から、年中年長児の遊びを中断させてしまうような姿が見られたり、ハサミの使い方やコーナーの使い方のルール指導に時間を要するため遊び込むことが難しかった。2 歳児クラスからの早期経験が必要であると考える。 ・以上児クラスの子どもは、自由に園内外で遊ぶため、担任以外の保育教諭と情報共有して子どもの様子を伝え合うように心がけていた。 ・園全体で情報を共有し、見守ることにより、安全かつ有効的な対応ができている。しかし、支援が必要な子どもの多様化、支援体制の構築にもまだまだ課題が残る。
保育の質の向上について	【クラス単位の公開保育を通して園内研修を行い、保育の見直しや改善を行う】	○クラスの様子や課題を他クラスの職員などが見て、その後の園内研修で意見や感想を出し合う機会を作った。課題についての意見やアドバイスをすぐに保育に活かし、課題が改善に向かうことも多かった。	・公開保育を通して、課題点に関する意見だけでなく、クラスの良い取り組みや保育者の関わり方の良い部分を出し合う事で、励みになった。 また、法人の評議員、学校関係者、小城市教育委員会の園訪問にて、第三者的に意見を頂き、教育・保育の面だけでなく、安全面や労務面での目標達成に向けた課題と対処法が見えてきた。

安全対策について	【ヒヤリハットに基づいて、けがが発生しやすい状況や場所を可視化して、対策を講じる】	○過去 2 年分の事故報告書、ヒヤリハットをもとに、けがが起きている時間帯、場所、年齢、状況等をマップに起こして分析すると、足の指のケガが多かった。ヒヤリハットでは「噛みつき」「転倒によるすりきず」が上位に上がり、予防できる対策について検討をした。	○「噛みつき」「転倒によるすりきず」は見守りの強化、園児へのけが防止への指導強化を行う。足の指のケガについては、水筒を持ち運ぶ際に足に落としており、これまで対策をしてきたものの改善が難しかったため、上靴着用の採用を来年度から行うこととした。準備期間として、1 月から 2 歳児以上の園児に上靴着用を開始する。ケガだけでなく、災害等の避難の際の安全にも有効であると考える。
情報発信について	【園生活の様子をコドモンドキュメンテーションで配信する】	○園での様子を伝えるツールとして、「各お便りや連絡帳、送迎時に口頭で伝える」としてきた。保育教諭が配信に向けて 4～6 月の 3 カ月間、準備、シミュレーションを行い、7 月より家庭へのドキュメンテーション配信を開始。遊びや生活の場面を写真にコメントを付けて週 2～3 回配信する。	・文章や口頭では伝わりにくい内容が、写真を加えることで、遊びや生活の様子が伝わったようだ。保護者以外の家族、親せきなども見られるため、配信を見ながら、親子、家族の会話に繋がっているとの声も聞かれた。作成する保育教諭にとっても、園児の成長や発見、気づきの瞬間を見逃さないようにと意識が高まった。
	【感染症の流行状況や子育てに関する情報発信】	○感染症流行の時期には、感染症についての情報や予防対策などを看護師が作成し【保健だより】で保護者へ配信する。感染症流行時期には園の感染症発生人数の情報を張り出している。 ○子育てに関するイベントや講演会などの情報を、掲示板や配信、チラシで知らせ、子育てを楽しみ、子どもが様々な経験ができる情報を発信した。	・感染症についての正しい情報を発信したり、園の感染者状況を知ることで、保護者が予防への意識を高めることができている。 ・イベントに関する情報は、保護者の関心も高いようだった。
	【地域への情報発信について】	○地域の各団体の会議や外部評価委員会で、園児の様子や園の教育・保育について、地域に開かれた保育施設となるよう発信している。	・行事や会議で来園される方は限られているので、まだまだ地域との関わりは不十分なところがある。地域住民や子育て世代など幅広い層にも、園を知ってもらうように考えていきたい。

4. 今後取り組むべき課題

課　　題	具体的な内容
社会の一員としての自分の存在に気づき、SDGs に関することを、遊びや学びを通して楽しみながら取り組む	園児が自分で考え行動し、社会に役立っている、環境を守っているという実感ができるように仕掛けていく。
絵本を子育てのツールとして活用できるよう家庭への働きかけを行っていく	園から配信するお便りで、おすすめの絵本を紹介したり、「読み聞かせノート」を配布し、読み聞かせをしたらポイントが増え、見える化をすることによって、たくさん読むことを楽しめるようにする。絵本を通して親子での時間や会話が増えるよう働きかけていく。

5. 総評

3 歳児、4 歳児の混合クラスが 2 年経過した。年長児が単学年になったものの、昨年度同じクラスだった年下の友だちと継続して関わる姿があった。交友関係が広がり、遊びにも広がりが出てくるので、経験値の向上に繋がると期待できる。未満児クラスは、遊びをできるだけ止めない保育に向け、各クラスでの環境設定を行いながら進めていった。また、進級時の環境の変化や担任交代から来る不安定さをできるだけ減らせるよう、年度末には進級後のクラスで遊んだり、生活する時間を設けた。より良い教育保育を実現するために、今年度は、園内で公開保育を行ったり、外部の方に保育を見ていただく機会があり、客観的な視点からの意見や評価を経て、保育の質の向上へとつながる取り組みに力を入れた。

職員の働きやすい職場作りとして課題の一つとなっていた休憩時間確保が「見える化」することで、順調に進んでいる。また、ICT を活用した業務軽減や書類作成などの業務をノンコンタクトタイムで行う事など、ワークライフバランスの改善に取り組み始めている。

6. 園評価委員会評価

【学校関係者】

＊子どもが主体となった保育の実現に向け、保育者が創意工夫をしながら取り組んでいたり、常に子どもの目線で接し、笑顔で丁寧な言葉かけが見受けられ、子どもが安心して過ごせていることが分かる。乳幼児という発達段階も踏まえて、避難訓練や職員研修、防犯カメラ設置など様々な安全対策が施されていると感じた。園での食育の取り組みをベースにして、小学校での食育を充実させていく必要がある。また、園における働き方改革の取り組みが着実に進んでいる。ICT の積極的な活用、交代制での休憩や研修等、多くのヒントを得た。

＊遊びの環境要因の中に、主体的、対話的で深く学べるよう仕組みがされており、それが意図的に仕組まれている。

【評議員】

＊育てたい子ども像が明確で、その実現に向けて工夫された様々な活動がなされ成果を上げていると強く感じた。

＊縦割り保育の策等、独自の工夫が見られた。子どもを見守るだけでなく、成長させたいとの園の方針がしっかりしている。

＊園内の各所に設置しているコンセントにカバーがされていないので危ないと感じた。

7. 園の運営について

子どもを取り巻く様々な事件や事故を目にすると心が痛みます。園児の健やかな成長の土台は、「安全で安心できる環境」だと考えます。園は、毎月の避難訓練や引き渡し訓練を行い、園児の安全に対する取り組みを積極的に行っていることが見受けられました。家族にとってだけでなく、地域にとっても大切な子どもであることを念頭に置いて、今後も教育・保育に力と愛情を注いでいただきたい。

令和７年６月７日

社会福祉法人　芦刈福祉会

理事　森永　徳昭

8. 財務状況

令和６年度、あしかりこども園の会計監査にあたり、収入支出に伴う関係書類及び関係帳簿等を慎重に審査した結果、いずれも正確であり園の運営、財政管理は適正に行われていると認められます。

令和７年６月１日

社会福祉法人　芦刈福祉会

監事　松枝　浩二